

平城宮跡第87次(北)発掘調査現地説明会資料

昭和50年8月30日

奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部

1. 平城宮跡第87次(北)発掘調査

- 調査地 推定第一次内裏東北部介おひの東側
- 面積 東西76m・南北45m、約3400m²
- 期間 昭和50年7月2日～9月中旬終了予定

2. 発掘遺構

- 築地回廊 1, 築地 1, 掘立柱扉 4, 掘立柱建物 8, 溝 5 ほど

3. 各時期の遺構について

(A期) 掘立柱列(SA01)によって区画される。

掘立柱南北棟建物(SB02)がSA01に接して建つ。

取北溝(発掘区東端で検出)は室の基幹水路である。

A期の遺構は後の造営によって削平されている可能性が強く、上記以外の明確な遺構は認められない。

(B期) 築地回廊(SC03)によって区画される。

回廊の内側(西側)には3棟の掘立柱建物が10尺方眼で整齊と配置される(SB04, 05, 06)。

溝は3棟の建物を囲む雨落溝

発掘区東半部分には、南北溝が走る。

(C期) 築地(SA07)によって区画される。

内部はさらに3列の掘立柱扉(SA08, 09, 10)で区画され、二つのブロックに各1棟の東西棟建物が配置される。

SA09に平行して走る溝は、SA07と接する部分で南へ折れ、さらに東へ折れ暗渠となり、基幹水路へ流入する。

掘立柱建物は建て替えがみられ、C₁、C₂の2時期に区別できる。

C₁期 : SB11(北ブロック)・SB12(南ブロック) 11ヶ所の廂を持つ掘立柱の東面棟建物。

C₂期 : SB13(北ブロック) 南北西面に各々廂を付す。廂の柱間は身舎の柱間より広い。SB14(南ブロック) 四面に廂を付す。廂の柱間は身舎の柱間より広い。

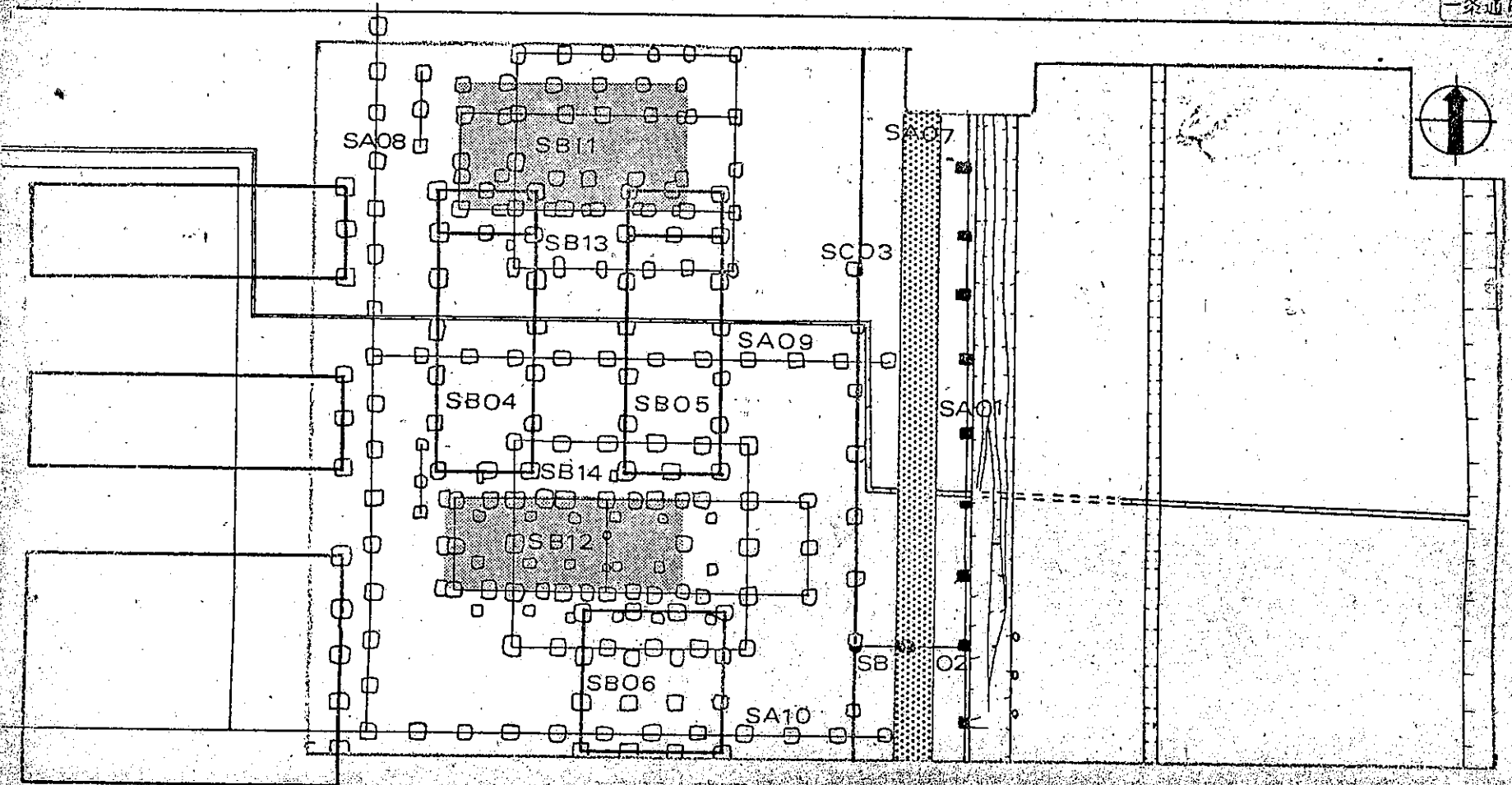
4. まとめ

A, B, C期の年代 : A期が和銅年間(710年頃)に、B期が天平末年(748年)前後、C期は天平末(749年)前後から平安時代初頭までを想定することができる。

今回の調査で明らかになったC₂期の建物配置は古図でうかがえる平安宮内裏の西北おひの東北隅部分の建物配置と類似している。

第87次(北)発掘調査遺構配置図

一歩通り



A		B		C	
SA01	掘立柱列 柱間 4.5m	SC03	築地面廊 桁行柱間 4.0m 梁行柱間 7.5m	SA07	築地
SB02	南北棟 桁行柱間 4.5m 梁行柱間 7.2m	SB04	南北棟 6 X 2 間 18 X 6m	SA08	南北塀 柱間 3.0m
		SB05	南北棟 同 上	SA09	東西塀 柱間 3.0m
		SB06	3 X 3 間 9 X 9m	SA10	東西塀 柱間 3.0m
				C1	
				SB11	東西棟 5 X 3 間 14 X 8.4m
				SB12	東西棟 5 X 2 間 15 X 6m
				C2	
				SB13	東西棟 南北西面各廂 身舎 5 X 2 間 14 X 6m
				SB14	東西棟 4面各廂 身舎 5 X 2 間 15 X 6m

